

設計機能を有する企業の立地決定要因

ー論理系ファブレス企業とアナログ半導体企業の立地が局在しているパラドックスー

八井田 収*

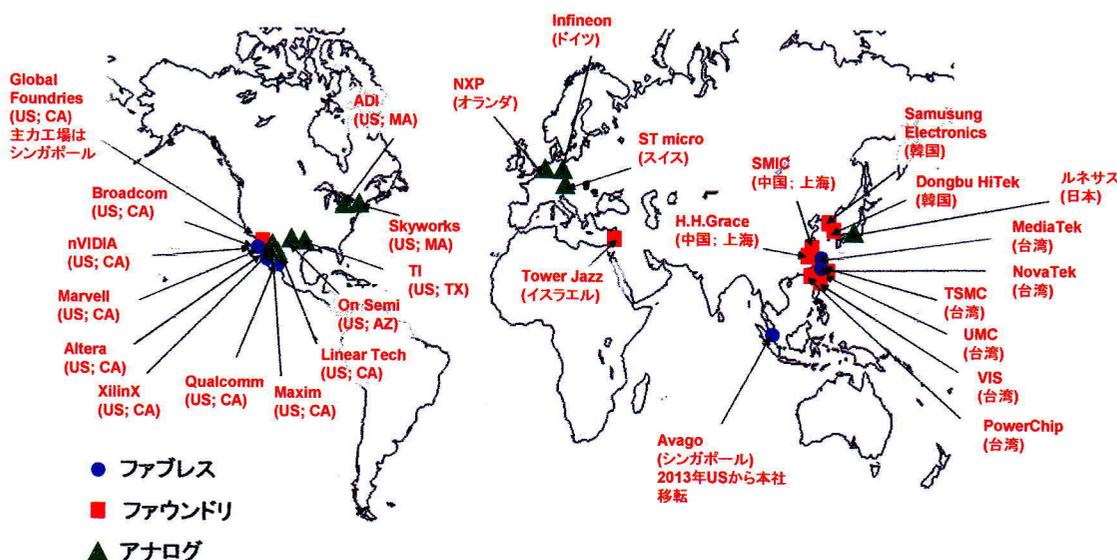
要旨

企業はグローバルな環境で競争しており、資本、労働力、原料、テクノロジーといった経営資源は世界を自由に移動しており、半導体産業の場合、製造機能を有する企業(ファウンドリ)は、台湾や韓国といった税制や要素コストなどの立地条件の優位な国に立地している。

しかし、設計機能を有する論理系ファブレス企業やアナログ系企業の立地が、相対的に立地条件の不利な米国等の先進国に偏っているのは、一種のパラドックスである。

設計機能を有する企業の立地決定要因は、論理系ファブレス企業では、シリコンバレーのような研究開発型クラスターの設計に適した技術情報と優秀なエンジニアが集まることによって特許に代表されるような企業の形式知の知識ストックに帰結されると考えられる。一方、アナログ系企業では、特許のような形式知だけでなくシニアエンジニアの経験により蓄積された企業の暗黙知の知識ストックに帰結されると考えられる。

図：半導体企業の立地マップ (ファブレス・ファウンドリ・アナログ)



分類コード : J、M

JEL classification : D20, F20, O30,

* 関西学院大学 経営戦略研究科 博士課程後期課程 e-mail: ekx75571@kwansei.ac.jp